芦田川さかなマップ

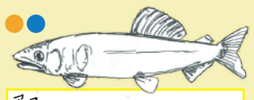
2023年9月24日作成

凡例	確認マーク（〇印）は左側が最新年度です。		
2023年	2017年	2011年	2006年
2022年	2016年	2010年	2005年
2021年	2015年	2009年	特 特定外来種
2020年	2014年	2008年	貴 きれいな川に住む魚など、芦田川にとって貴重な種類。
2019年	2013年	2007年	

府中大渡橋

貴

調査した場所
田畑の間に家がまばらにあるような場所で、比較的水はきれいである。川幅は広く、水の流れは早い。川の中に州がたくさんあり、草が茂っているため、水辺の生物にとって生きやすい環境だといえる。見つかる魚の種類が多く、アカザも見られる。川岸が整備され、川の中に入りやすくなっている。

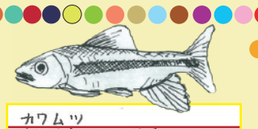


アユ
本州全域に住んでいる。天然アユは減少しているため、琵琶湖などから種魚を取り寄せて放流している。石の表面に付いている藻を食べる。中流に多くいる。

アカザ
宮城県・秋田県以南の本州、四国、九州に広く分布する。水が比較的きれいな川の中流から上流下部の瀬の石の下や間にすみ、石のすき間をかいくぐるように泳ぐことが多い。背びれに1本、胸びれに1本ずつ計3本の大きなトゲがあり、トゲには毒線があるので、ささされると痛い。芦田川水系での生息数はきわめて少ない。

ギギ
本州中部以南、四国、九州の東部に分布し、比較的水がきれいで、石や流木、石垣などがあるところで見られる。背びれと胸びれのとげが発達していて、ささされると激しく痛む。つかまえると胸びれでギーギーなく。

ムギツク
琵琶湖以西の本州と、九州北部に分布し、大きな石があるようなところのよどみにいる。小さなおちょぼ口が上向きについている。すぐ物かげにかくれてしまう。石についている水生昆虫を食べる。

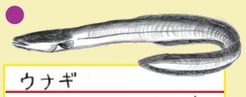


カワムツ
本州中部以西に生息しているが、現在では関東地方でも見られる。河川の上、中流や流れのゆるやかな淵に多くいる。なわばり意識が強く雑食性で昆虫や藻などを食べる。太い1本の黄色の縦線があるのが特徴。

ズナガニゴイ
近畿地方以西の限られた川にしかいない。川の中流から下流域に分布し流れのゆるやかな川底に砂利にもぐって水生昆虫などを食べる。
普通のニゴイよりも体が小さいが頭と口は長く、体側に小黒点の列がある。

ヤリタナゴ
北海道と南九州を除く各地に生息し、平野部の細流や用水路上部などの水の流れのある所にいる。ソウ類をよく食べマツカサガイやイシガイに産卵する。腹白色で体幅が著しく狭く、背びれに黒い斑点がある。

ドンコ
東北を除く本州全域に住む。中流から下流に多い。夜行性の傾向が強く、砂底を好み、小魚・エビ・カニ・水生昆虫を食べる。広島県内では減少しているが、芦田川水系では、比較的安定した個体群がいる。



ウナギ
太平洋側は北海道の日南地方以南、日本海側は石狩川以南の日本各地に分布する。背側は暗色で、腹側は白色、特別の斑紋はない。
春から秋に主として水生昆虫類、小型の魚類、貝類、エビ類、カエル類などを活発にとり、成長する。

特

オオクチバス（別名：ブラックバス）
北アメリカ原産で、今では国内のほぼ全域に分布している。止水や流れのゆるやかな河川に生息し、大きな口で魚類や甲殻類を食べる。体側から背にかけて不規則な暗斑があり、腹側が黄味を帯びた白色となっているのが特徴。特定外来種に指定されている。

特

ブルーギル
原産地は北アメリカ中東部一帯で、現在は日本各地に分布。幼魚は暗褐色の横縞が入る。エラぶたの上端に黒色の斑紋があるのも特長。

カマツカ

タモロコ

イトモロコ

ナマズ

オイカワ

メダカ

コウライニゴイ

カワヨシノボリ

オオシマドジョウ

コイ

府中大渡橋で見つけた生物

- カワゲラ　・ナガレトビケラ
- オオシマトビケラ　・ヒラタドロムシ
- コオニヤンマ　・カワニナ
- ハグロトンボ　・スジエビ　・モエビ
- ヌマエビ科　・アメンボ
- サナエトンボ科

暑い中川に入れて、
楽しくたくさん取れました

流域治水について勉強しました!

魚クイズでみんながたくさん手をあげて答えたよ

水質調査結果（パックテスト等）　調査日：2023年9月24日		
項　目	地点名	
	芦田川府中大渡橋	出口川
時間	10時30分	11時30分
気温（℃）	23℃	30℃
水温（℃）	18℃	25℃
透視度	100cm以上	100cm以上
pH	7.6	8.5
COD（mg/l）	0mg/L	6mg/L
亜硝酸（mg/l）	0.01mg/L	0.07mg/L
リン酸（mg/l）	0.03mg/L	0.2mg/L

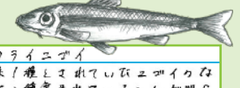
まとめ

３年ぶりに一般参加者を交え実施された調査日は、天気も良く暑さを感じる一日でした。
府中大渡橋では貴重種のアカザや、様々な種類のいきものが確認されました。
両地点とも、昨年度と同等かやや多くの種類の魚や水生昆虫などが観察され、生物の生息できる水辺や川底の環境が保たれていることが確認出来ました。また、きれいな水を示す指標生物が多く観察されたことから、芦田川・出口川の水も良好であり、様々ないきものにとって棲みやすい環境であることが確認されました。

出口川

調査した場所
出口川は町の中をながれていて、生活排水が流れこむ川である。川岸には草が多く生えているが、頻繁に刈り込みが行われていて、魚のすみかが減っている。川幅が狭く流れがゆるい。川底は砂が積もっていて魚の種類が多く、カワヨシノボリが定着している。

カマツカ
本州、四国、九州に分布し、用水路の砂や石の川底で流れのある場所でみられる。口が下向きについていて、くちびるが大きくのびる。口からえさを砂ごとほおばり、エラ穴から砂を出しながら解離する。

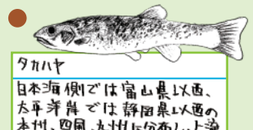


コウライニゴイ
使用！移植されていたニゴイのなかにこの種含まれていることが明らかになり国内での分布が確認された。中部地方から九州地方、国内の大河川の中・下流に生息する。砂底を好み水生小動物や藻を食べる。

オオシマドジョウ
本州、四国、九州の一部に分布し、冷たく水のきれいな水域の砂底にいる。眼下にとげがたたまれており、手でにぎると現れる。おどろいたりすると砂によくもぐる。川底で小型生昆虫、底生藻類、有機物を砂と一緒に食べ、砂だけを出している。

イトモロコ
愛知県以西、九州北部まで住んでいる。
中流から下流に多い。芦田川では比較的上流側に分布しており、支流の流れで多数観れていることがある。

ゲンジボタル
全国各地に分布する。川の下流の淀みや、平地の低湿地や沼地に生息する。雑食性で底生動物および藻類などのほかに、場所によって動物プランクトンなども食べる。ゲンジボタルには、雄はいない。



タカハヤ
日本海側では富山県以西、太平洋側では静岡県以西の本州、四国、九州に分布し、上流部の植物の根周りなどでみられる。ウロコがとても小さく、体表はタメヌメしている。

ドジョウ

ナマズ

特

オオクチバス

ニシキゴイ

カワムツ

ヤリタナゴ

ギギ

タイリクバラタナゴ

ムギツク

ドンコ

ズナガニゴイ

カワヨシノボリ
中部地方以西の西日本に住む。上流中流の流れのゆるやかな所に住み、藻類や小型の水生昆虫を食べる。止水域ではなぜか生息できない。

オイカワ
関東以西の本州、四国、九州に分布し、河川中・下流域および湖沼に広く生息する。雑食で付着藻類から水生昆虫や落下昆虫、底生動物や浮遊動物などを食べる。また、成長にともなって食性転換が起こる。雄は、産卵期には、婚姻色が出て、とてもきれいだ。

メダカ
本州以南に広く分布し、池、水田や用水、河川の下流域など、流れの緩い場所に生息する。動物・植物プランクトンや水面に落ちた小さな昆虫などを食べる雑食性。道路やコンクリート化など開発が進み、次第に住み場が失われている。

コイ
日本各地に分布。
流れのゆるやかな淵などにすむ。
岸辺の植物や浅瀬の水草などに産卵する。
雑食性で、底生動物のタニシやイトミミズ、水草などを食べる。

貴

カワヒガイ
濃尾平野以西から九州北西部の中下流地域に生息している。夏季には本流から水を引く用水路にも生息。体側に青や緑色などの輝きがみられる。動物食主体の雑食性。産卵はイシガイなどの二枚貝に行われる。

出口川で見つけた生物

- カワゲラ　・ヒラタカゲロウ　・ナミウズムシ　・オオシマトビケラ
- ヒラタドロムシ　・ゲンジボタル　・コオニヤンマ　・ハグロトンボ
- ミズカマキリ　・シジミ属　・スジエビ　・モクズガニ　・アメンボ
- サナエトンボ科　・タニシ　・ヌマエビ科　・イトトンボ科　・プラナリア